

輸血部ニュース

15-vol.3 2015年11月18日
広島大学病院 輸血部 発行：藤井 輝久
編集：齊藤 誠司
輸血部内線：5582, 6227
PHS:2894, 2389

『緊急輸血専用の検体ケース』をご使用ください

- 緊急輸血の場合は「**緊急輸血専用**」のケースに入れ、輸血部まで搬送をお願いします。
 - 各フロアに1ケースずつ置きますが、追加で必要な場合は輸血部へご連絡ください。
- 【専用ケースで輸血部へ搬送する理由】
- メッセンジャー便で搬送した際に、検査部に提出されてしまい、輸血部に届くまで時間を要し、クロスマッチまでに時間がかかったケースがありました。
 - また当直時間帯の輸血検査において下記のインシデントが発生しました。



緊急輸血検査に関するインシデント

【事例】担当医が日当直時間帯に輸血検査検体を提出し、輸血検査当直者に「手術になる可能性があるので、輸血検査（血液型検査と不規則抗体スクリーニング検査）をしてほしい」と電話で伝えたが、輸血検査が行われなかった。翌日に緊急手術となり、担当医が予備血をオーダーした際に輸血検査の結果がないことが判明した。

【対策】「口頭での指示」では輸血検査当直者に情報が確実に伝わらず、当直者が必要な検査の実施を徹底することは難しい。また時間外の検体を全て検査すると、二重に検査してしまう可能性もあることから、輸血検査当直者の業務負担やコスト増につながる。そのため通常業務日まで待てないような緊急輸血の可能性が高い場合には、輸血検査が必要な検体を「**緊急輸血専用**」のケースに入れて輸血部へ提出することとする。

この記事に関するお問い合わせは
輸血部内線 5582, 6227 まで